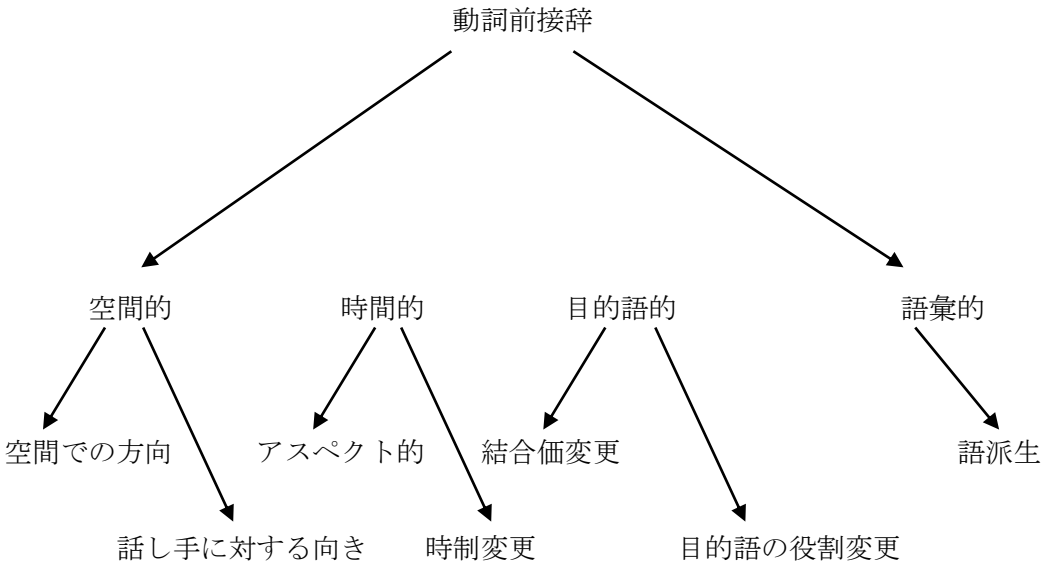
グルジア手話と音声グルジア語における動詞前接辞

タマル・マハロブリゼ
（ジョージア・イリア州立大学）

本発表では、グルジア手話と音声グルジア語の動詞前接辞の機能を記述し、この問題の類型論に貢献する。動詞前接辞は、言語によって異なる意味や動きを示す。類型論的な動詞前接辞の機能の分類は、以下のようであると考えられている。



音声グルジア語と他のカルトヴェリ諸語の動詞前接辞の３つの機能、すなわち空間的、時間的、語彙的機能は、多くのグルジア人学者によってよく記述されているが、動詞前接辞の目的語的な機能及びこれらの言語における動詞前接辞の目的語の役割変更効果については、本発表で初めて記述される。

動詞前接辞の目的語的な内容もしくは機能は、動詞の結合価の変更のような派生効果を持っている。語彙的・目的語的機能は、派生的である。後者が、項を結合する効果を示す一方で語彙的機能は語彙素の派生を行う。影響を受ける項が常に目的語であるので、発表者は項結合機能を「目的語的」と名付けた。この動詞前接辞（不変化詞と傍置詞）の機能と他動詞化の効果は、印欧語については多くの言語学者が記述している。項－構造的な動詞前接辞や不変化詞の機能について形態論の観点から記述している学者もいるが、その一方で、不変化動詞や動詞前接辞構文は統語論的な問題であると考える学者もいる。

本発表では、音声グルジア語と他のカルトヴェリ諸語の動詞前接辞によって表示される動詞の項構造の交替についても議論する。発表者は、音声グルジア語とグルジア手話では、動詞前接辞が動詞の結合価の変化にも影響を与え、目的語の役割変更の効果を与えることを議論する。最初の分析からは、グルジア手話（GESL）の動詞前接辞は空間的な内容だけ

を持ち、そのためグルジア手話の動詞前接辞は、場所／空間の項／間接目的語を追加することによって結合価を増加させることができるように思われた。音声グルジア語からの動詞前接辞の異なる意味を翻訳するために、グルジア手話は、特定の場合については適切な形態的意味を持つ他の形態素を用いる。

動詞前接辞の目的語役割の飽和もしくはいわゆる「項の交替」は、印欧語でも起こりうるものであるし、それらの言語ではよく例証されている。この動詞前接辞の機能を発表者は「目的語の役割変更」と名付けた。なぜなら、それは、抱合された音声グルジア語／カルトヴェリ諸語動詞の中に存在するある種の形態論的な指示を伴う形態統語的な現象だからである。これは、本来的には統語的な、意味的・語用論的な成分を伴う「目的語交替」とは異なる。実際には一般に項の交替については、文脈的な要素が非常に重要である、しかし、目的語の役割変更については、決定的なのは動詞の形態意味論である。目的語の役割変更は、目的語交替の一種であると考えることができ、これら２つの問題は、単一の言語学的な覆域の中にあるのかもしれない。本発表では、グルジア語手話の動詞前接辞の空間的な内容と同時に文法化の過程を始めて明らかにしたものである。

キーワード： 動詞前接辞、グルジア語、グルジア手話、手話言語、目的語、結合価、動詞